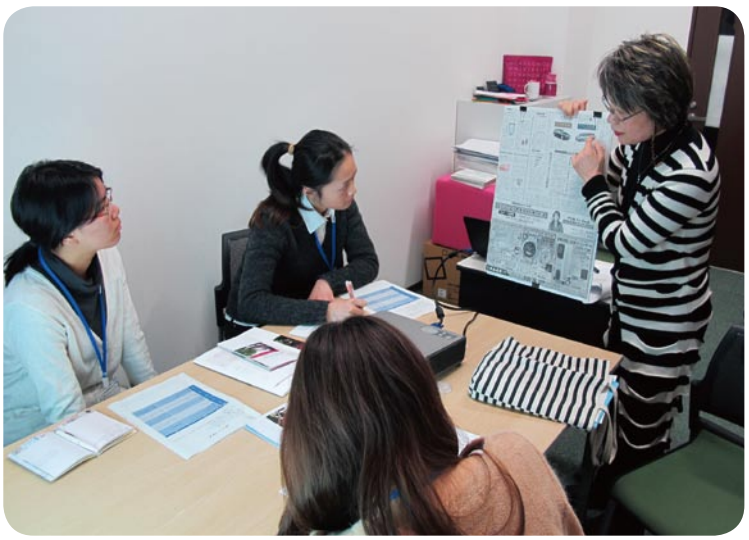
学生のアクティビティ

お茶の水女子大学では、本学学生向けの学内インターンシッププログラムを用意しています。今号では、広報チーム（事務組織）と附属図書館で実施したインターンシッププログラムに参加した学生の、体験記をご紹介します。

お茶大初!広報インターンシップ

—1年生奮闘記—



坪田学長特命補佐から広報の基礎知識のレクチャー

私たちは2012年2月20～24日に広報インターンシップに参加し、広報業務を体験するとともに、大学見学・お茶大グッズ・学報「OCHADAI GAZETTE」の3つに分けて、大学の広報活動の課題を検討しました。広報という仕事自体の説明や課題についてのレクチャーを受けた後、私達が課題に取り組んで報告し、アドバイスを頂いてから実践、といったような形をとりました。

大学見学

大学見学は、中高生やその保護者、中学校・高校の教員などを対象に行っています。私たちは、実際にその大学見学を体験し、キャンパスツアー時に参照する地図を配布すること、キャンパスツアーを学生で行うことを提案しました（地図に関しては、完成次第見学会で配布することが決まりました）。

お茶大グッズ

お茶大グッズは生協でのみ販売されているスタイリッシュな製品で、売上の一部を国際的NGO “Room to Read” に寄附し、途上国の女の子の長期教育支援にあててていますが、その活動が広く学内に認知されていませんでした。私たちは、その社会貢献活動をPRし、お茶大グッズの販売を促進するために、商品陳列棚に置くPOPを提案しました。

学報「OCHADAI GAZETTE」

広報推進室が発行しているこの「OCHADAI GAZETTE」自体も特に学生の認知度が低いものの一つでした。私たちは、「OCHADAI GAZETTE」が学内でより目に留まるようにするため、効果的な置き場所を考えました（インターンシップ期間中に、学生センター棟や図書館など数か所に置くことができました）。

成果発表会でのプレゼンテーション

インターンシップを終えて

- このインターンシップを通じ、他のインターンシップ生と課題に対して議論をし、広報チームの方々にご指摘いただくことで、自らの改善点に気付くことが出来、キャリアを考える上でも大変役に立ちました。（御所名）
- インターンシップ生として大学内の様々な場所に行くことで、お茶大の新しい一面を知ることができました。今後も大学広報に貢献できることがあれば、積極的に活動していきたいと思います。（田代）
- 授業とは全く違う雰囲気で緊張感を高め、「交渉戦略」に知恵を絞って討論し、提案を作り出すまでの工夫を実感した経験はきっと、これからのキャリアに役に立てると思います!（詹）

インターンシップ生全員の感想

広報という仕事は大学の外部の方と接する機会も多いため、大学の印象に大きく関わる重要な仕事です。そして、広報という仕事、つまり「アピールする」ということはいつ、どのような状況でも行っているのだと学びました。インターンシップは終わりましたが、自分達は常にお茶の水女子大学の広報であるということを意識して学生生活を送り、これからも広報チームと協力し合って、学生と大学が一体となった広報活動を続けていきたいと思います。

文責：御所名麻希子（文教育学部人文科学科１年）
田代恵理子（文教育学部言語文化学科１年）
詹思怡（文教育学部人間社会科学科１年）

附属図書館LiSA(Library Student Assistant)

附属図書館LiSA(Library Student Assistant)は、学生と図書館スタッフによる図書館活性化プロジェクトです。LiSAとなった学生は、書架の整理や本の装備、目録作業、蔵書点検等、様々な図書館業務に携わることができます。また、自主的に展示や他大学との交流会等の企画を立ち上げ、実施することもできます。

LiSAの活動を通して、利用しているだけでは見ることのできなかった附属図書館の側面を見ることが出来、図書や学問がより身近に感じられるようになりました。更にLiSAの何よりの魅力は、本との繋がりはもちろん、人との繋がりも広がることであると感じています。

同じLiSAの仲間や図書館職員の方々など、これまで関わりのなかった方たちと関わりを持つことができました。また、常に前進する図書館を作ろうと働いている皆様の姿からは、いつも大きな刺激を頂いています。自分もそんなお茶大図書館の一員としてより良い図書館作りに貢献できるよう、これからも努力していきたいと思います。

文責：秦野寛子(文教育学部言語文化学科日本語･日本文学コース３年)

LiSAには1年生後期から参加しています。

配架前の本に一足早く触れられる興奮、あまり手に取ることのなかった分野の本との出会い。講習会を通じたスキルアップや、データ入力によって利用者の利便性が上がることを実感できた時の嬉しさ。他学科・他学年のメンバーとの交流、自主的に企画したイベント等の実施。自分が装備した本を手に取ってもらえた時の喜び…。これらは皆、LiSAだからこそ経験できたことだと思います。

またLiSAの業務は「社会に出るとはどういうことか」を考えるきっかけにもなりました。アルバイト等をしたことがなかった私にとって、LiSAは初めての「仕事」でした。将来社会に出て働くときに役立てることができるような心構えを、少しずつですが身につけることができたと思います。

今後は「利用者」の立場と「LiSA」の立場を上手に融合し、附属図書館がより一層身近で使いやすくなるように貢献していければと思います。

文責：大島美幸(文教育学部言語文化学科日本語･日本文学コース２年)